既存化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号		99 - 6	官報公示 整理番号	3	3 - 186	CAS 番号	106 - 49 - 0
名	称	別名 : p- h ノ ル・ 1-7	Fルアニリン -ルイジン、4-ア トルエン、 4-メ ベンゼンアミン アミノ-4-メチル ゼン	チ、、	構 造 式		CH ₃
分	子 式	C_7H_9N		分子量		107.15	

市場で流通している商品(代表例)1)

純 度 : 99.0%以上

不純物 : 不明 添加剤又は安定剤:無添加

物理・化学的性状データ

外 観:白色固体2)

融 点:44-45 3,4)

沸 点: 200-201 3,4)

引 火 点:86 (c.c.)³⁾

発 火 点:482 5)

爆発限界:1.1-6.6%⁵⁾ 比 重:d₄²⁰1.046^{3,4)}

蒸 気 密 度:3.69(空気 = 1)

蒸 気 圧: 26 Pa(0.2 mmHg)(20)⁶⁾ 、130 Pa(1 mmHg)(43)⁶⁾

分配係数: log Pow; 1.6(計算値)⁶⁾

加水分解性:加水分解を受けやすい化学結合なし

解離定数:pKa = 5.07⁷)

スペクトル:主要マススペクトルフラグメント

m/z 106(基準ピーク, 1.0)、107(0.68)、77(0.14)⁸⁾

吸 脱 着 性:土壌吸着係数 Koc = 323-508⁹⁾

粒度分布: 文献なし

溶 解 性: 4メチルアニリン/水; 11 g/ℓ (20)6)

アルコール、エーテル、ベンゼンなどの有機溶媒に混和。

換算係数:1 ppm = 4.45 mg/m³ (気体, 20) 1 mg/m³ = 0.224 ppm

総合評価

1) 危険有害性の要約

ヒトにおいてメトヘモグロビン血症、血尿がみられる他、アニリンと同様にチアノーゼや貧血、めまい、頭痛などを起こすことが考えられており、感作性も報告されている。一方、実験動物においては、眼、皮膚、気道への刺激性、皮膚への感作性、肝臓への影響、メトヘモグロビン血症が報告されている。変異原性・遺伝毒性では *in vitro* では陽性、陰性がみられるものの *in vivo* では陽性の報告のみである。

発がん性に関しては悪性腫瘍、肝臓の良性腫瘍、4メチルアニリン塩酸塩で肝細胞腺腫と腺癌の増加がみられている。本物質は環境中に放出された場合、大気中ではOH ラジカルとの反応による半減期は数時間と報告されている。水圏では生分解される。環境庁のモニタリングデータでは水質及び底質中から検出されたことがある。

2) 指摘事項

- (1) ヒトにおいてチアノーゼ、メトヘモグロビン血症、血尿、感作性が報告されている。
- (2) 変異原性・遺伝毒性の in vitro、in vivo 共に陽性の報告がみられる。
- (3) 実験動物では肝臓への影響が報告されている。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(1999).
- 2) 後藤稠, 池田正之, 原一郎編, 産業中毒便覧・増補版, 医歯薬出版(1991).
- 3) The Merck Index, 12th. Ed., Merck & Co., Inc. (1996).
- 4) 有機合成化学協会編,有機化学物辞典,講談社(1985).
- 5) IPCS, International Chemical Safety Cards (1989).
- 6) IUCLID(International Uniform Chemical Information Data Base) Data Sheet, EU(1995).
- 7) 化学辞典, 東京化学同人(1994).
- 8) NIST Library of 54K Compounds.
- 9) Hazardous Substances Data Bank (HSDB), U.S.National Library Medicine (1997).